

〈名画の扉〉

大川美術館特集展示から



「桜狩図」

1892〜93年、インク、墨・紙  
9・9センチ×13・4センチ

藤島武二 (1867〜1943年)

現在、当美術館では、の反動として、国粹主  
特集展示「藤島武二」義に覆われた美術界で  
レクシオン」として、は、洋画家たちですら、  
寄託されている素描、日本的、あるいは伝統  
水彩、パステル、版画を意識しながら、懐旧  
等100点を展示して、的な歴史風俗画を描い  
ています。ていました。

藤島武二は、今日で この素描は、26歳に  
も近代日本の絵画の歴史 なった藤島が描いた大  
史をふりかえるときに 作「桜狩」(焼失)の画稿  
名前が必ずあがる画家 とされる作品です。桜  
です。しかしその生涯 をめでながら遊ぶ御殿  
は、けっして順風満帆 女中たちを描いていま  
なものではありません す。江戸時代の風俗と  
でした。いうキュウクツな画題

17歳で洋画家を志し をかりながら、ロマン  
て鹿児島から上京した チックな若い感性を発  
藤島にとって、「西洋 揮しようとう工夫してい  
画」を学ぶことは容易 ることがうかがわれま  
なことでありません す。  
でした。明治維新以来 (田中)